

古き良き時代を偲ぶ

ノスタルジックコース

コンセプトポイント



1 ニッケ印南工場

大正8年から操業している印南工場には、イギリスからの輸入レンガによる工場棟・倉庫などが多数建てられている。当時としては珍しかった輸入レンガが、今では懐かしい雰囲気を出している。ノコギリ屋根の天窗からの光は、十分な光源がなかった操業当時、繊維の色の確認に最適だったという。

チェックポイント レンガを使った建造物からは懐古的な趣が感じられる。



2 ニッケ社宅倶楽部

ニッケ加古川工場が明治32年に同社初の工場として操業を開始した際、欧米から招いた技師のために建てられた加古川に現存する唯一の異人館。2棟あるうちの1棟は工場開設と同時期に建てられたもの、もう1棟は、明治末あるいは大正期に建てられたもの。現在も集会所などとして、日本毛織が使用している。改装もほとんど行われていないため、当時のままの雰囲気を感じることができる。

チェックポイント 戦前に作られた初期近代建築。改装もほとんど行われておらず、当時のままの雰囲気を残している。



3 加古川図書館

かつて金剛寺(こんごうじ)という寺院があった一帯に建てられており、昭和10年に加古川町公会堂として建てられた。完成当時は演劇や各種講演会が開かれたりと、文化の中心地だった。平成20年度に兵庫県の景観形成重要建造物に指定された。

チェックポイント アールデコ風の幾何学模様デザインされたステンドグラスの大アーチ窓と、側面の連続アーチ窓やスクラッチタイル張りの1階正面部分などに趣がある。



4 寺家町

「寺家町」はJR加古川駅の西側一帯の大字名で、寺院がこのあたりに莫大な領地を所有していたことから、この名がつけられたと言われている。江戸時代には西国街道の宿場町「加古川宿」として栄えた。現在は寺家町商店街として賑わっている。

チェックポイント 姫路藩の藩役所であった陣屋や光念寺の白壁など、古い街並みが残っている。

スタート
ゴール地点

【凡例】

- モデルコース(約7.6km)
- 1~4 コンセプトポイント
- A~D よりみちポイント

トイレ 喫茶 レストラン 自販 駐車

©That's & Trial 2010

時の流れのなかで、あるときは激しく
あるときは静かに変化してきた加古川の街並み。
日本の繊維産業の発展に大きく関わった
ニッケのレンガ工場からは
時代の流れを感じることができます。
戦前の雰囲気が残る風景とともに
ノスタルジックな散策に出かけてみませんか？

